

海軍公報號外

昭和三年十一月一日(木)
海軍大臣官房

○通牒

官房第三七六號ノ二

昭和三年十一月一日

海軍省副官

關係諸官殿

大禮觀兵式ニ關スル件

本件ニ關シ大禮觀兵式委員長ヨリ左記ノ通牒有之候
條陪觀希望ノ向ハ職官氏名來十一月七日迄ニ海軍省人
事局宛通知相成度
右依命申進ス

記

陸觀發第一二號

大禮觀兵式陪觀希望者調査ニ關スル件

照會

昭和三年十月二十六日

大禮觀兵式委員長 阿部信行

海軍省副官 小楨和輔殿

海軍公報 號外

來十二月二日午前東京市外代々木練兵場ニ於テ大禮觀
兵式御舉行被可爲在候ニ就テハ貴省並在京海軍官衛學
校ニ在職スル海軍士官、海軍高等文官ハ陪觀ノ爲陸軍
大臣ヨリ招待相成ヘク候條左記條項御參照ノ上陪觀希
望者ハ來十一月十日迄ニ御回報相成度依命及照會候也
追テ在京在郷海軍將官、地方在勤ノ海軍官衛、學校
ノ長並大禮觀艦式ニ參列ノ艦長以上ノ諸官ニシテ大
禮觀兵式陪觀希望者モ併セテ御調査ノ上御回報煩ハ
シ度申添候

左記

- 一、陪觀者ノ服裝ハ正裝、大禮服トシ其ノ制ナキモノ
ハ通常禮服(フロックコート代用差支ナシ)着用
トス
- 二、當日雨天、強風又ハ式場泥濘ノ節ハ翌三日、尙雨
天等ノ節ハ適宜順延セララル
- 三、陪觀券ハ陪觀希望者ニ對シ十一月二十五日頃迄ニ
貴省宛送付ス

1928

海軍公報

第五百五十一號

海軍大臣官房

昭和三年十一月二日(金)

○令達

官房第三七七九號

昭和三年十一月二日

海軍大臣

各所屬長官殿

天皇 皇后兩陛下 行幸行啓ノ件

天皇 皇后兩陛下 來十一月六日東京發御京都共ノ他
行幸行啓ノ儀被仰出候趣宮内大臣ヨリ通牒有之候條此
ノ旨心得ベシ

右通達ス

追テ御發著割左記ノ通

記

十一月六日

午前七時

御發著

同 八時

東京驛御發車

午後三時三十分

名古屋驛御著車

行在所 名古屋離宮

十一月七日

午前九時五十分 名古屋離宮御發著

同十一時 名古屋驛御發車

午後二時 京都驛御著車

京都皇宮著御

十一月十九日

午前十時 京都皇宮御發著

同十時三十五分 京都驛御發車

午後二時二十分 山田驛御著車

行在所 神宮司廳

十一月二十日

午前九時 宇治山田行在所御發著

豐受大神宮御親謁

十一月二十一日

午前九時 宇治山田行在所御發著

皇大神宮御親謁

海軍公報 第五百五十一號 昭和三年十一月二日

一一六九

1930

十一月二十二日

午前十時 宇治山田行在所御發輦

同 十時三十分 山田驛御發車

午後二時二十分 京都驛御著車

京都皇宮 還御

十一月二十三日

午前九時五十分 京都皇宮御發輦

同 九時四十分 京都驛御發車

同 十一時三十分 畷傍驛御著車

神武天皇山陵御親謁

午後一時 畷傍驛御發車

午後二時五十分 京都驛御著車

京都皇宮 還御

十一月二十四日

午前九時 京都皇宮御發輦

仁孝天皇山陵御親謁

孝明天皇山陵御親謁

十一月二十五日

午前九時 京都皇宮御發輦

同 九時三十分 京都驛御發車

同 九時四十五分 桃山驛御著車

明治天皇山陵御親謁

午前十一時五十分 桃山驛御發車

同 十一時二十分 京都驛御著車

京都皇宮 還御

十一月二十六日

午前九時四十分 京都皇宮御發輦

同 十一時 京都驛御發車

午後二時 名古屋驛御著車

行在所 名古屋離宮

十一月二十七日

午前六時五十分 名古屋離宮御發輦

同 八時 名古屋驛御發車

午後三時三十分 東京驛御著車

還 幸

十一月二十九日

午前九時五十分 御發輦

同 九時五十分 原宿驛御發車

同 十一時五分 東淺川驛御著車

大正天皇山陵御親謁

午後三時三十分 東淺川驛御發車

1931

同 一時四十分 原宿驛御著車
還 御

○通牒

官房第三七八〇號ノ二

昭和三年十一月二日

海軍 次官

陸上各廳長殿

國旗掲揚ニ關スル件

大禮中左記期日ニハ在京各部隊、官衙、學校ニ於テ國旗ヲ掲揚スルコトニ定メラレ候條御了知相成度
右申進ス

追テ地方ニ在ル部隊、官衙、學校ニ於テハ右ニ準ジ所屬長官ニ於テ適宜一定セラレ差支無之儀ニ有之候

記

十一月 六日 京都ニ行幸ノ儀

同 十日 即位ノ禮

同 十四日及十五日 大嘗祭

同 十六日 大饗第一日ノ儀

同 十七日 大饗第二日ノ儀

海軍公報 第五百五十一號 昭和三年十一月二日

同 二十七日
十二月 日

東京ニ還幸ノ儀
東京市御大禮奉祝會
當日

官房第三五〇〇號ノ二

昭和三年十一月二日

海軍省 副官

關係廳長殿

御大禮諸儀式當日職工休業ニ關スル件

本年十月九日官房第三五〇〇號首題ノ件中第三號「鐵夫」ノ次ニ「常備人夫及工作應ニ於テ期間ヲ定メテ繼續傭入中ノ人夫」ヲ追加セラレ候
右依命通知ス

○雜款

○軍艦春日行動豫定

地名 着

横須賀 十一月五日

清水 七日

横須賀 九日

横須賀 十一日

發

十一月四日

七日

八日

十一日

十三日

○艦船所在

▲印ハ「ハ」ホノ
指定ヲ要セズ

○十一月二日午前十時調

【横須賀】

筑摩▲、日進▲、阿蘇、磐手、北上、加賀▲、

長門、陸奥、扶桑、日向、那珂、天龍、

金剛、比叡、衣笠、加古、古鷹、青葉、

名取、赤城、鳳翔、木曾、山城、五十鈴、

榛名、春日

神風、野風、沼風、波風、朝風、春風、

松風、旗風、杉、松、柏、榊、吳竹、

若竹、早苗、早蕨、萩、薄、菖、

芙蓉、朝顔、夕顔、刈萱、梅、柿、

榆、栗、水無月、皐月、文月、長月、

菊月、三月月、望月、夕月、朝風、追風、

疾風、夕風、如月、睦月、潮生、卯月、

梅、楠、桐、櫻、橘、樺、灘風、汐風、

島風、夕風、磯波、桂、楓、

波一、波二、波九、波一〇、呂一一、

呂一二、呂一三、呂二二、呂二〇、

呂二一、伊二、伊一、伊三、呂五七、

呂五八、呂五九、伊二二、伊二一、

伊二三

掃一、掃二、掃三、掃四

富士、松江、大泊、鳴戸、膠州、鶴見、

間宮、能登呂、大和

【横濱】

(妙高)
迅鯨

呂六八、呂六三、呂六四、呂六六、

呂六五、呂六七

【浦賀】

(深雪)
(白雪)

【大湊】

沖風、澤風、峯風、矢風

【吳】

霧島、淺間、勝力、平戸、鬼怒、長鯨、

【大阪】

吹雪

那智、韓崎

濱風、時津風、天津風、磯風、東雲、

薄雲、白雲

波三、波四、波五、波六、波七、波八、

呂五一、呂五三、呂一六、呂一四、

呂一五、呂一、呂五二、伊五二、伊五一、

伊五五、伊五三、伊五四、呂五六、

呂五四、呂五五、呂二七、呂二六、

呂二八、呂一八、呂一七、呂一九、

伊五八

掃一〇、掃一一、掃一二、掃八、掃七、掃九

野島、劍崎、攝津、石廊、朝日、高崎

(伊五六)、(伊五七)

【神戶】

(足柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)

【玉】

(掃五)

【大坂】

(吹雪)

【神戶】

(足柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)

【玉】

(掃五)

1934

【土佐沖】泥

【舞鶴】吾妻、多摩

【梨、竹、樅、榧】

呂二五

(初雪)

【佐世保】若宮、龍田、夕張、由良、川内、長良、

常磐

【葦、菱、菫、太刀風、羽風、秋風、帆風、

【蓼、蓮、蓬】

呂二、呂三、呂四、呂五、呂六、呂七、呂八、呂九、呂一〇、呂一一、

呂一二、呂一三、呂一四、呂一五、呂一六、呂一七、呂一八、呂一九、呂二〇、呂二一、

呂二二、呂二三、呂二四、呂二五、呂二六、呂二七、呂二八、呂二九、呂三〇、呂三一、

敷島、襟裳、早瀬

【長崎】室戸

(羽黒)

【高雄】大井

【谷風、江風、菊、葵、

【鎮海】海風、山風、檜、板

【旅順】對馬

【大連】駒橋

【青島】球磨

【桑、楨、樺】

【上海】矢矧、伏見、嵯峨、安宅

浦風

【南京】桃

【蕪湖】樅

【九江】柳

【漢口】利根

【長沙】陽田

【沙市】勢多

【重慶】保津

【廣東】宇治

【航海中】

堅田 (十月十五日上海發—重慶へ)

隱戸 (十月十七日「ホルル」發—徳山へ)

佐多 (十月十八日「サンビドロ」發—徳山へ)

滿州 (十月二十一日「トラツク」發—測地ヲ經テ「パライオ」へ)

洲埼 (十月二十四日佐世保發—「タラカン」へ)

神威 (十月二十五日横須賀發—「タラカン」へ)

比良 (十月二十七日漢口發—宜昌へ)

出雲、八雲 (十月三十一日青島發—徳山へ)

鳥羽 (十月三十一日宜昌發—上海へ)

檜 (十月三十一日上海發—蕪湖へ)

知床 (十月三十一日「ヒロ」發—徳山へ)

青島 (一日函館發—横須賀へ)

尻矢 (一日「サンビドロ」發—徳山へ)

伊勢 (二日宮島發—別府へ)

阿武隈、神通 (二日横須賀發—小豆島へ)

(號外二頁、同別圖三葉、部内限三頁)

1984-2

海軍公報 號外

昭和三年十一月二日(金)
海軍大臣官房

○通牒

官房第三七八二號

昭和三年十一月二日

海軍省 副官

在京各廳長殿

御大禮遙拜式竝ニ饗儀ニ關スル件

官房第三四五五號ノ五竝ニ大禮海第五三號ニ依ル來十一月十日(即位禮當日)、同十四日(大嘗祭當日)及同十六日(大饗第一日ノ儀當日)ニ於ケル次第左記ノ通定メラレ候
右通牒ス

記

十一月十日

一、午後二時三十分 參列員中高等官、同待遇ハ附圖第一ノ位置ニ、判任官、同待遇、職員ノ引率スル經理學校生徒、下士官兵ハ附圖第二ノ位置ニ整列

ス

二、午後三時 首席將校ノ令ニ依リ遙拜式、諸員各個

敬禮 職員ノ引率スル經理學校生徒、下士官兵ハ此ノ限ニ在ラズ

軍樂隊奏樂「君ガ代」

次ニ萬歳三唱(大禮海第五二號ニ依ル)

三、右訖テ高等官、同待遇退出

判任官、同待遇以下(右位有勤者ヲ除ク)ハ附圖第三ニ依リ大臣室ニ奉揚ノ御寫眞ヲ拜シ訖テ逐次退出
十一月十四日

一、午後六時三十分 參列員整列ス(位置、十一月十日ニ同シ)

二、午後七時 首席將校ノ令ニ依リ遙拜式、諸員各個

敬禮 職員ノ引率スル經理學校生徒、下士官兵ハ此ノ限ニ在ラズ

軍樂隊奏樂「國ノ鎮メ」

三、右訖テ高等官、同待遇退出 次ニ判任官、同待遇以下逐次退出

海軍公報 號外

1935

十一月十六日

一、午前十一時三十分 諸員指定期賜饌場ニ參集ス
賜饌場並ニ司會者左ノ通

賜 饌 者 賜 饌 場 司 會 者

高等官、同待遇 水交社 參會者中宮中席次最高者

判任官、同待遇 海軍省 海軍大佐 羽仁 六郎
海軍豫備員

二、正午 諸員食堂ニ着席、賜饌

次ニ萬歳三唱（大禮海第五二號ニ依ル）

三、右訖テ諸員退出

注意

一、前記三日ノ各儀ニ於テ參集諸員ハ各自官名記

載ノ名刺ヲ受付ニ差出スコト 職員ノ引率スル經理
學校生徒 下士官兵

ハ此ノ限
ニ在ラス

二、在職者ニシテ事故又ハ所勞等ニ依リ十日、十

四日ノ儀ニ不參ノ向ハ各前日迄ニ海軍省副官

宛書面ニシテ届出ヅルコト

（別圖ニ添添）

○ 辭 令

海軍中將 池田 岩三郎

官房第三七八二號ニ依ル十一月十日施行ノ御大禮遙

拜式ニ於ケル首席將校ニ指定ス

海軍少將 米村 末喜

官房第三七八二號ニ依ル十一月十四日施行ノ御大禮

遙拜式ニ於ケル首席將校ニ指定ス（以上ニハ海軍大

臣）

1936

(附圖第一)

備為
高等官同待遇、約六〇名

軍令部長室

約八十二人

約七列

約四十列

約四十列

約五人

約五人

軍樂隊

首席將校
正面

約十人

第一會議室

1937

(附圖第二)

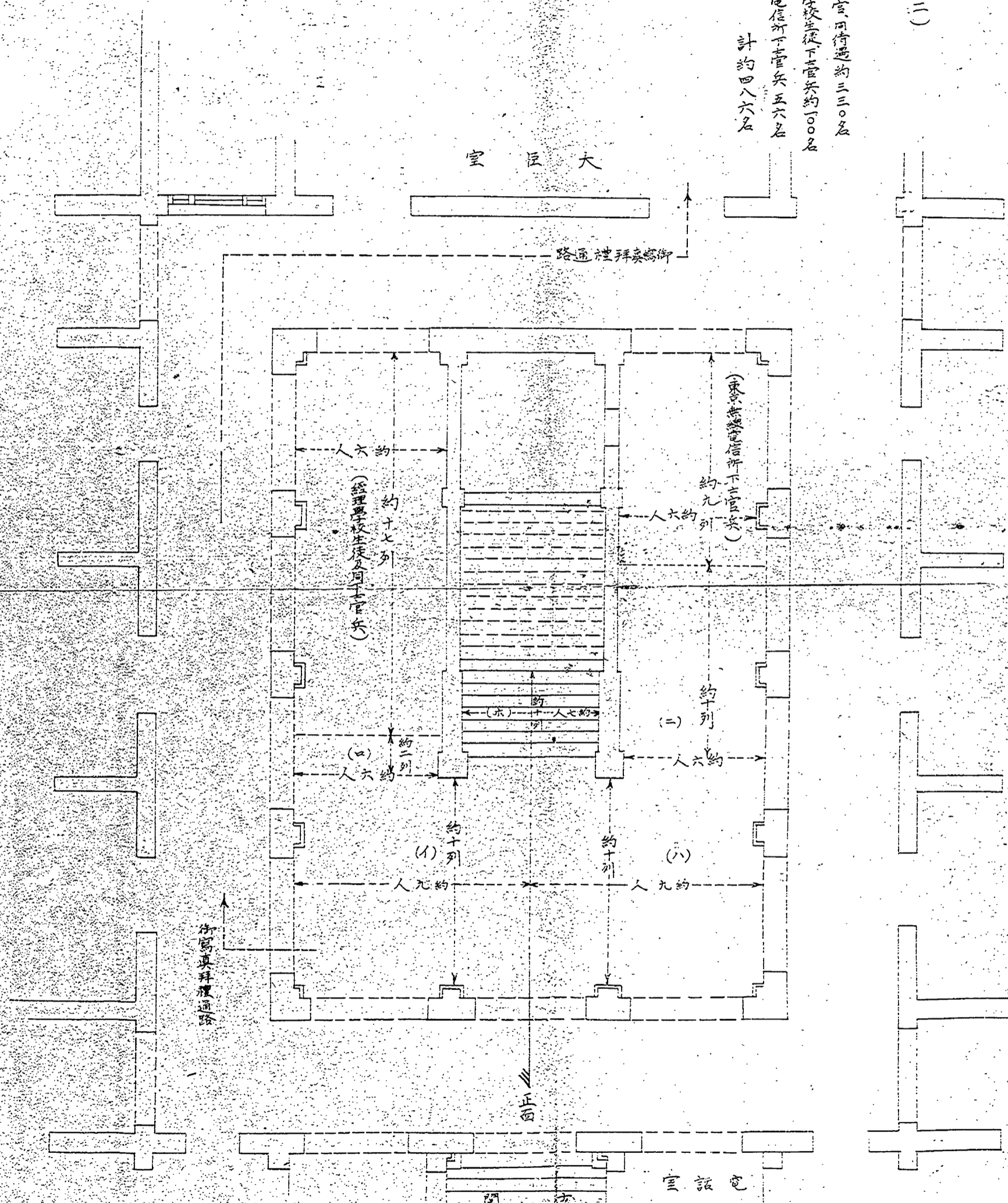
備考

判任官同待遇約三三〇名

經理學校生徒下官兵約一〇〇名

東京電信所下官兵五六名

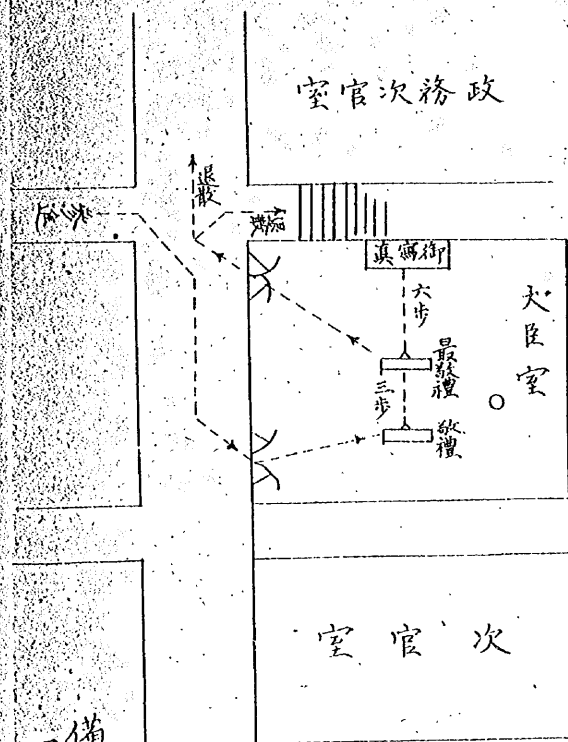
計約四八六名



(一) (二) (三) 判任官同待遇
 左各廳順右翼先頭並整列
 大官房、軍務局、人事局、
 教育司、軍務局、医務局、
 經理司、建築局、法務局、
 軍令部、継政部、航空本部、
 水路部、大學校、軍區學校、
 經理學校、東京無線電信所、
 衛署、通令、順序、左列次依、
 各部首座判任官、當該部諸、
 員、整列方、補佐、入

1933

(附圖第三)



備考
一回約十名宛參進スルモノトス

昭和三十二年海軍公報号外別圖

1939

海軍公報

第五百五十二號

海軍大臣官房

昭和三年十一月五日(月)

○辭令

海軍少佐 前田 稔

高等軍法會議判士ヲ免ス
東京軍法會議判士ヲ免ス

海軍大尉 中 瀨 源

高等軍法會議判士ヲ命ス
東京軍法會議判士ヲ命ス

海軍屬 坂井 宗茂
同 小泉 久次郎
海軍書記 遠藤 好雄
同 仁科 誠三郎
同 弘中 正男

大禮特別觀艦式事務委員附ヲ命ス(以上^{海軍省}海軍省)

海軍中佐 廣瀬 正經

技術部勤務ヲ命ス(以上^{海軍航空本部}海軍航空本部)

庶務課附ヲ命ス 海軍特務少尉 芳野 喜作

醫務課附ヲ命ス 海軍看護兵曹長 梨子木 與吉

○雜款

海軍特務少尉 芳野 喜作
検査官職務執行ヲ命ス(以上^{海軍技術研究所}海軍技術研究所)

○司令驅逐艦變更
第二十四驅逐隊司令ハ本月二日司令驅逐艦ヲ檣ヨリ檣ニ變更セリ

○第一掃海隊(掃一、掃二、掃三、掃四)行動豫定
地名 着 發
横須賀 十一月五日 十一月四日
名古屋 十一月五日 十五日
横須賀 十六日

○郵便物發送先
軍艦常磐宛 十一月十五日迄ニ到達見込ノモノハ 仁 川
其ノ後ハ 佐 世 保
第一掃海隊(掃一、掃二、掃三、掃四)宛

海軍公報 第五百五十二號 昭和三年十一月五日

一一七五

1940

十一月十四日迄三到達見込ノモノハ名古屋
其ノ後ハ横須賀

○電話架設

海軍省經理局第一課長海軍主計大佐佐々木重藏(府下
瀧ノ川町中里三一五)電話左記ノ通架設セリ

小石川 三八四一番

1941

長崎	高雄	鎮海	旅順	青島	上海	鎮江	南京	漢口	沙市	重慶	廣東	神威
〔羽黒〕	〔大井〕	〔谷風、江風、菊、葵〕	〔海風、山風、檜、榎〕	〔對馬、駒橋〕	〔球磨、檜、櫻、椿〕	〔矢矧、安宅〕	〔伏見〕	〔桃、柳、檜、根〕	〔利根〕	〔勢多〕	〔宇治〕	〔洲崎〕

【航海中】

隱戸 (十月十七日「ホノルル」發—徳山へ)
 佐多 (十月十八日「サンビドロ」發—徳山へ)
 滿州 (十月二十一日「トラツク」發—測地ヲ經テ「バラオ」へ)
 比良 (十月二十七日漢口發—宜昌へ)
 鳥羽 (十月三十一日宜昌發—上海へ)
 知床 (十月三十一日「ヒロ」發—徳山へ)
 尻矢 (一日「サンビドロ」發—徳山へ)
 嵯峨 (二日上海發—漢口へ)
 伊二 (伊一、伊三、能登呂 (三日横須賀發—大阪へ)
 鶴見 (三日横須賀發—神戸へ)
 口金剛 (比叡、ト名取、区水無月、早月、文月、長月、
 区菊月、三日月、望月、夕月、区朝風、追風、疾風、
 夕風、区如月、睦月、翔生、卯月 (四日横須賀發—
 大阪へ)
 天龍 (区吳竹、若竹、早苗、早蕨、区藤、萩、薄、
 蕙、区芙蓉、朝顔、夕顔、刈萱、区梅、柿、楡、
 栗 (四日横須賀發—神戸へ)
 平戸 (四日吳發—神戸へ)
 保津 (四日重慶發—沙市へ)
 長鯨 (区伊五二、伊五一、区伊五五、伊五三、
 伊五四 (四日吳發—大阪へ)
 吹雪 (四日大阪發—吳へ)
 室戸 (四日佐世保發—馬公へ)
 高崎 (四日吳發—長崎へ)
 衣笠 (加古、古鷹、青葉 (五日勝浦發—大阪へ)
 竹 (五日舞鶴發—大泊へ)

(部内限二頁、同別表一葉)

1943

海軍公報

第五百五十三號

海軍大臣官房

昭和三年十一月六日(火)

○令達

官房第二八三五號ノ一〇

即位禮及大嘗祭後大饗第一日ノ儀ノ當日饗饌ニ召サレザル現役海軍下士官兵、諸生徒及下士官相當ノ軍屬一同ニ對シ特ニ御思召ヲ以テ酒饌料御下賜相成候右傳達ス

昭和三年十一月六日

海軍大臣

官房第三八〇一號

昭和四年終給支九号ノ三ノ本号自然消滅

昭和三年十一月十五日限リ戰時給與ニ關スル諸規定竝ニ昭和三年勅令第二百十九號ノ適用ヲ停止ス

昭和三年十一月六日

海軍大臣

○通牒

官房第三八〇二號ノ二

昭和三年十一月六日

海軍省副官

關係諸官殿

天機竝ニ御機嫌奉伺ニ關スル件

本件ニ關シ左記ノ通通牒有之候

右依命中進ス

記

宮内大臣官房官發第七六九號

昭和三年十一月二日

宮内次官 關屋貞三郎

海軍次官 大角岑生殿

通牒

大禮行幸ノ節ニ於ケル拜謁並天機御機嫌奉伺ニ關スル件左記之通御承相成度候

記

一、拜謁

海軍公報 第五百五十三號 昭和三年十一月六日

一一七九

1944

(イ) 行在所ニ於テハ一般有資格者拜謁無シ

(ロ) 途中御停車驛ニ於テハ拜謁無シ

二、天機竝御機嫌奉伺時刻

(イ) 名古屋行在所

十一月六日午後五時三十分ヨリ同七時マテ

十一月二十六日午後四時ヨリ同六時マテ

京都皇宮

十一月七日午後四時ヨリ同六時マテ

十一月八日午後一時ヨリ同四時マテ

十一月九日午前九時ヨリ午後四時マテ

十一月十一日午前九時ヨリ正午マテ

十一月十二日 午前九時ヨリ午後四時マテ

十一月十三日 午前九時ヨリ午後四時マテ

十一月十四日午前九時ヨリ午後二時マテ

十一月十五日午前九時ヨリ午後四時マテ

十一月十七日午前九時ヨリ午後三時マテ

十一月十八日午前九時ヨリ午後四時マテ

十一月二十三日

十一月二十四日 午前九時ヨリ午後四時マテ

十一月二十五日

(ハ) 宇治山田行在所

十一月十九日午後三時五十分ヨリ同四時三十分マテ

十一月二十日

十一月二十一日 午後一時ヨリ同四時三十分マテ

1945

○艦船所在

▲印ハハホレノ
指定ヲ要セズ

○十一月六日午前十時調

【横須賀】筑摩▲、日進▲、阿蘇、磐手、北上、加賀▲

木曾

区神風、野風、沼風、波風、区朝風、春風、

松風、旗風、区杉、松▲、柏▲、区灘風、

汐風、島風、夕風、桂、楓

波一、波二、波九、波一〇、呂一一、

呂一二、呂一三、区呂三二、呂二〇、

呂二一、区呂五七、呂五八、呂五九、

区伊二二、伊二一、伊二三

富士、松江、大泊、鳴戸、膠州、大和、

青島

(妙高)

品川

榛名

横濱

山城

(白雪)

浦賀

(深雪)

清水

春日

【名古屋】五十鈴

区掃一、掃二、掃三、掃四

区霧島▲、淺間▲、勝力、鬼怒、那智

区濱風、時津風、天津風、磯風、区東雲、

薄雲、白雲

【大阪】

区出雲、八雲、区金剛、比叡、区衣笠、加古、

古鷹、青葉、区名取、区長鯨

区水無月、皐月、文月、長月、区菊月、

区三日月、望月、夕月、区朝風、追風、疾風、

夕風、区如月、睦月、彌生、卯月

区伊二、伊一、伊三、区伊五二、伊五一、

区伊五五、伊五三、伊五四

能登呂

(叢雲)、(掃六)

【神戸】区長門、陸奥、扶桑、日向、区那珂、区天龍、

区迅鯨、区赤城、風翔、平戸

区吳竹、若竹、早苗、早蕨、区藤、萩、薄、

区菖、区芙蓉、朝顔、夕顔、刈萱、区榎、柿、

区榆、区栗、区梅、楠、区桐、櫻、橘、橘、柿、

区呂六八、呂六三、呂六四、区呂六六、

呂六五、呂六七

区宮、鶴見

1946

【玉】(足柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)
 (掃五)
 【高松】阿武隈、神通
 【須崎】淀
 【舞鶴】吾妻、多摩
 梨、樅、榎
 呂二五
 (初雪)
 【佐世保】若宮、龍田、夕張、由良、川内、長良、
 常磐
 葦、菱、菫、巨太刀風、羽風、秋風、帆風、
 蓼、蓮、蓬
 呂二、呂二四、呂二三、呂三、呂四、
 呂五、呂六二、呂六一、呂六〇、呂三一、
 伊六三、呂三〇、呂二九、呂三一
 敷島、襟裳、早鞆
 【長崎】高崎
 (羽黒)
 馬公、巨谷風、江風、菊、葵
 【鎮海】山風、檜、板
 【旅順】對馬
 【青島】球磨
 巨桑、檜、櫻、椿
 【上海】矢矧、安宅
 浦風
 【鎮江】伏見
 【南京】桃
 【蕪湖】檜

九江 柳根
 大治 利根
 漢口 勢多
 沙市 岡田
 重慶 堅田
 廣東 宇治
 廣東 神威、洲崎
 タラカン
 【航海中】
 隱戸 (十月十七日「ホノルル」發—徳山へ)
 佐多 (十月十八日「サンビドロ」發—徳山へ)
 滿州 (十月二十一日「トラツク」發—洲地ヲ經テ「バラオ」へ)
 比良 (十月二十七日漢口發—宜昌へ)
 鳥羽 (十月三十一日宜昌發—上海へ)
 知床 (十月三十一日「ヒロ」發—徳山へ)
 尻矢 (一日「サンビドロ」發—徳山へ)
 嵯峨 (二日上海發—漢口へ)
 保津 (四日重慶發—沙市へ)
 吹雪 (四日大阪發—吳へ)
 室戸 (四日佐世保發—馬公へ)
 韓崎 (五日吳發—江田内ヲ經テ神戸へ)
 駒橋 (五日旅順發—佐世保へ)
 沖風、奉風、矢風 (五日大湊發—小樽へ)
 竹 (五日舞鶴發—大泊へ)
 伊勢 (二日別府發—吳へ)
 大井 (六日高雄發—安平へ)
 海風 (六日鎮海發—釜山へ)
 磯波 (六日伊東發—横須賀へ)

(部内限一頁)

1947

海軍公報 第五百五十四號

昭和三年十一月七日(水)
海軍大臣官房

○辭令

支那上海へ出張ヲ命ス(陸海軍省)
海軍警査 江口源太郎

○雜款

○旗艦變更
練習艦隊司令官ハ本月五日旗艦ヲ出雲ヨリ八雲ニ變更セリ

○司令潜水艦變更
第十一潜水隊司令ハ本月一日司令潜水艦ヲ呂號第五十一潜水艦ヨリ呂號第五十三潜水艦ニ變更セリ

○第二驅逐隊(沖風)行動豫定

大湊	着	十一月五日	發
小樽		十一月六日	八日
函館		九日	十五日

大湊 十五日

○驅逐艦澤風行動豫定
地名 着

大湊	着	十一月五日	發
小樽		十一月六日	十五日
大湊		十六日	

○驅逐艦峯風行動豫定

大湊	着	十一月五日	發
小樽		十一月六日	八日
大湊		九日	

○驅逐艦矢風行動豫定

大湊	着	十一月五日	發
青森		十一月六日	八日
小樽		九日	十五日
大湊		十五日	

○郵便物發送先

第二艦隊司令部、軍艦金剛、比叡、第五戰隊司令

海軍公報 第五百五十四號 昭和三年十一月七日

一一八三

1948

部、軍艦衣笠、青葉、加古、古鷹、第二水雷戰隊司令部、軍艦名取、第二十二驅逐隊（水無月、文月、長月、阜月）、第二十三驅逐隊（菊月、三月月、夕月、望月）、第二十九驅逐隊（朝風、夕風、疾風、追風）、第三十驅逐隊（如月、彌生、卯月、睦月）、第二潜水隊司令部、軍艦長鯨、第七潜水隊（伊二、伊三、伊一）、第十七潜水隊（伊五二、伊五一）、第十八潜水隊（伊五五、伊五四、伊五三）、特務艦能登呂宛
十一月二十六日迄ニ到達見込ノモノハ 大 阪

第二驅逐隊、沖風）宛
十一月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 函 館
其ノ後ハ

驅逐艦澤風宛
十一月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 小 樽
其ノ後ハ

驅逐艦峯風宛
自 今 大 湊

驅逐艦矢風宛
十一月十四日迄ニ到達見込ノモノハ 青 森
其ノ後ハ

第十七驅逐隊（海風、山風、檜、榎）宛

ハ ス ラ	十一月十三日迄ニ到達見込ノモノハ 元 釜 山
	但シ驅逐艦山風宛 驅逐艦檜、榎宛
同	二十二日迄ニ 同 鎮 海
同	二十五日迄ニ 同 鎮 海
同	十二月四日迄ニ 同 吳 濱
第二十八驅逐隊（蓼、蓮、蓬）宛 十一月十六日迄ニ到達見込ノモノハ 鹿 兒 島	
但シ驅逐艦蓮宛	沖 繩 縣 那 霸
同	二十四日迄ニ 同 佐 世 保
同	十二月四日迄ニ 同 横 濱
其ノ後ハ	佐 世 保

○事務所設置
驅逐艦霞雲艦裝員事務所ヲ本月三日株式會社藤永田造船所（大阪市住吉區柴北町）内ニ設置セリ

○國際聯盟新加坡保健部東局傳染病週報（自十一月二十一日至同二十七日）

ベ ス ト	患 者 死 者	有 留	患 者 死 者	患 者 死 者	患 者 死 者
コ レ ラ					
痘 瘡					
三 、 四					

1949

孟買	一	二	五	二
カルカッタ	二五	三	三	五
マドラス	三	一	三	一
ネガバタム			七	二
ボンヂシエリ				四
ゴロンボ	一			
メダン			一	一
スラバヤ			一	
ブナンベン			一	二
西貢、シヨロン			二	二
香港			七	六
廣東	一			
上海				三
大連			一	

摘要「タマタマ」、「サマリンダ」ハ孰モ報告未着

海軍公報 第五百五十四號 昭和三年十一月七日

後備役海軍少佐正六位勳四等牛島政八本月一日東京市芝區白金三光町八五自宅ニ於テ死去セリ

後備役海軍少佐正六位勳五等森野内富三本月二日廣島市段原町一〇二自宅ニ於テ死去セリ

一一八五

1950

○艦船所在

▲印ハハカレノ
指定ヲ要セズ

○十一月七日上午十時調

【横須賀】

筑摩▲、日進▲、阿蘇、磐手、北上、加賀▲、
木曾、榛名

▽神風、野風、沼風、波風、▽朝風、春風、

松風、旗風、▽杉、松▲、柏、榊▲、▽灘風、

汐風、島風、夕風、桂、楓、磯波

波一、波二、波九、波一〇、呂一一、

呂一二、呂一三、▽呂二二、呂二〇、

呂二一、▽呂五七、呂五八、呂五九、

▽伊二二、伊二一、伊二三

富士、松江、大泊、鳴戸、膠州、大和

【横濱】

(白雪)

【浦賀】

(深雪)

【名古屋】

五十鈴

【小樽】

▽掃一、掃二、掃三、掃四

【吳】

▽霧島▲、淺間▲、勝力、鬼怒、那智、伊勢

▽濱風、時津風、天津風、磯風、▽東雲、

薄雲、白雲、吹雪

波三、波四、波五、波六、波七、波八、

▽呂五三▲、呂五一▲、▽呂一六、呂一四、

呂一五、呂一、呂五二、▽呂五六、呂五四、

【大

阪】

▽八雲、出雲、▽金剛、比叡、▽衣笠、加古、
古鷹、青葉、▽名取、▽長鯨

▽水無月、皐月、文月、長月、▽菊月、

三日月、望月、夕月、▽朝風、追風、疾風、

夕風、▽如月、睦月、彌生、卯月

▽伊二、伊一、伊三、▽伊五二、伊五一、

▽伊五五、伊五三、伊五四

能登呂

(叢雲)、(掃六)

【神

戸】

▽長門、陸奥、扶桑、日向、▽那珂、▽天龍、

▽迅鯨、▽赤城、鳳翔、韓崎

▽吳竹、若竹、早苗、早蕨、▽藤、萩、薄、

菖、▽芙蓉、朝顔、夕顔、刈萱、▽梅、柿、

榆、栗、▽梅、楠、▽桐、櫻、橘、樺

▽呂六八、呂六三、呂六四、▽呂六六、

呂六五、呂六七

問宮、鶴見

(足柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)

【高

松】

(掃五) 阿武隈、神通

1951

【德山】 隱戸
 【土佐】 淀
 【舞鶴】 吾妻、多摩
 梨、樅、榎
 呂二五
 (初雪)
 【佐世保】 若宮、龍田、夕張、由良、川内、長良、
 葦、菱、董、太刀風、羽風、秋風、帆風、
 蓼、蓮、蓬
 呂二、呂三、呂四、呂三三、呂四、
 呂五、呂六一、呂六一、呂六〇、呂三一、
 伊六三、呂三〇、呂二九、呂三一
 敷島、襟裳、早鞆
 【長崎】 高崎
 (羽黒)
 【馬公】 谷風、江風、菊、葵
 【安海】 大井
 【鎮海】 楢、榎
 【旅順】 對馬
 【青島】 球磨
 【上海】 桑、檳、櫻、椿
 矢矧、安宅
 浦風
 【鎮江】 伏見
 【南京】 桃
 【燕湖】 檉
 【九江】 柳
 【大江】 柳

【航海中】
 佐多 (十月十八日「サンビドロ」發—德山へ)
 滿州 (十月二十一日「トラック」發—測地ヲ經テ「バラオ」へ)
 比良 (十月二十七日漢口發—宜昌へ)
 鳥羽 (十月三十一日宜昌發—上海へ)
 知床 (十月三十一日「ヒロ」發—德山へ)
 尻矢 (一日「サンビドロ」發—德山へ)
 嵯峨 (二日上海發—漢口へ)
 保津 (四日重慶發—沙市へ)
 室戸 (四日佐世保發—馬公へ)
 洲崎 (四日「タラカン」發—「マニラ」へ)
 駒橋 (五日旅順發—佐世保へ)
 竹 (五日舞鶴發—大泊へ)
 常磐 (六日佐世保發—仁川へ)
 平戸 (六日神戶發—吳へ)
 海風 (六日鎮海發—釜山へ)
 神威 (六日「タラカン」發—「タバオ」へ)
 青島 (六日横須賀發—吳へ)
 春日 (七日清水發—横須賀へ)
 山城 (七日横濱發—横須賀へ)
 山風 (七日鎮海發—釜山へ)

【廣東】 宇治
 【重慶】 勢田
 【沙市】 陰多
 【長沙】 利根
 【漢口】 根

(部内限二頁)

1952

海軍公報 第五百五十五號

昭和三年十一月八日(木)
海軍大臣官房

○通牒

軍務二第四〇三號

昭和三年十一月八日

海軍省軍務局長

各鎮守府 參謀長殿
第一、第二艦隊

飛行電報ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ朝鮮總督府ニ於テモ大正十四年軍務二
第二八一號ノ通取扱フ旨通牒有之候條御了知相成度
右申進ス

(參照)

軍務二第二八一號

大正十四年十月三十日

海軍省軍務局長

各鎮守府 參謀長殿
第一、第二艦隊

飛行電報ニ關スル件

今般遞信省令及同省公達ヲ以テ電報規則及電報取扱規
程改正ノ結果十一月一日ヨリ飛行電報取扱ニ關シ別紙
改正電報取扱規程按萃ノ通新ニ規定實施セララルコト
ト相成候ニ付テハ右御了知ノ上十一月一日ヨリ大正十
二年六月二十二日軍第四三七號ニ依ル飛行電報ノ有線
電報最先傳送手續ヲ取止メ飛行電報ハ之ヲ「至急官報」
トシ且電報頼信紙ノ餘白ニ適宜「飛行電報」ト朱書ノ上
發信手續相成様御取計相成度尙飛行電報ノ取扱ヲ要ス
ル場合遞信省へ豫定通知ノ必要有之候條左記事項豫メ
御通知相成様御取計相成度

右依命申進ス

記

- 一、飛行電報豫定取扱期間
- 二、取扱局
- 三、豫定航空路

(別紙略)

大禮特觀第四四號

海軍公報 第五百五十五號

昭和三年十一月八日

一一八九

1953

昭和三年十一月八日

大禮特別觀艦式事務委員長

大禮特別觀艦式關係各部御中

觀艦式役員表章纏附ノ件

左記觀艦式役員ハ當日任務ニ從事中左腕ニ紅白縫合セ
ノ表章ヲ纏附スルモノトス

記

大禮特別觀艦式事務委員長、委員、委員附

接 伴 掛 掛

棧 橋 掛 (士官)

自動車 掛 (士官)

御召艦、賜餐艦、陪觀艦及拜觀艦船ニテ指定セル接
伴掛士官

追テ該表章ハ大禮特別觀艦式事務委員ニ於テ調製シ
所要ノ向ヘ配付ス

○ 辭 令

海軍屬 坂井 宗茂

大禮特別觀艦式事務委員附ヲ免ス

同 兒島 綱彦

大禮特別觀艦式事務委員附ヲ命ス(以上ハ海軍省)

第五部勤務ヲ命ス

海軍機關少佐 小野 胖

總務部第二課勤務ヲ命ス

海軍主計少佐 山本 龜次

第一部第一課勤務ヲ命ス

海軍技師 神谷 基夫

第一部第一課勤務ヲ命ス

海軍技師 神谷 基夫

第一部第一課附ヲ命ス(以上ハ海軍艦政本部)

海軍技師 根岸 秀夫

主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ(以上ハ海軍艦政本部)

海軍技師 神谷 基夫

長)

○ 雜 款

○郵便物閉糞交換廢止

昭和三年公報四八三頁

軍艦大井ト長崎郵便局間ニ取扱中ノ軍艦郵便ハ今般廢
止セラレタリ (海軍省副官)

○驅逐艦樞行動豫定變更

(十月三十日
本欄参照)

地名	着	發
舞鶴	十一月九日	十一月九日
敦賀	十一月十五日	十一月十五日
舞鶴	十一月十五日	十一月二十四日

1954

横須賀 二十七日
 東京 三十日
 舞鶴 十二月八日
 十二月五日

○驅逐艦竹行動豫定變更(十月三十日)
(本欄参照)

地名	着	發
舞鶴		十一月五日
大泊	十一月八日	十一月五日
大湊	十一月十六日	十一月五日
舞鶴	十一月十八日	十一月十六日

其ノ後ハ第二十五驅逐隊ニ同ジ
 備考 天候ノ都合ニ依リ大湊ヨリ横須賀ニ直航セシム
 ルコトアルベシ

○郵便物發送先
 第二遣外艦隊司令部、軍艦球磨宛
 自今 門司郵便局氣付(軍艦郵便)

特務艦早鞆宛
 十二月二十一日迄ニ到達見込ノモノハ 佐世保
 十二月六日迄ニ同 横須賀
 四年一月八日迄ニ同 横濱郵便局氣付(軍艦郵便)
 二月六日迄ニ同 徳山郵便局留置
 其ノ後ハ 佐世保

海軍公報 第五百五十五號 昭和三年十一月八日

1955

○艦船所在

指▲印△ハホニ
定ヲ要セズ

○十一月八日午前十時調

【横須賀】

筑摩▲、日進▲、阿蘇、磐手、北上、加賀▲

木曾、榛名、山城、春日

▽神風、野風、沼風、波風、▽朝風、春風、

松風、旗風、▽杉、松▲、柏、榊▲、▽灘風、

汐風、島風、夕風、桂、楓、磯波

波一、波二、波九、波一〇、呂一、

呂二、呂三、▽呂二二、呂二〇、

呂二一、▽呂五七、呂五八、呂五九、

▽伊二二、伊二一、伊二三

富士、松江、大泊、鳴戸、膠州、大和

(妙高)

【横濱】

(白雪)

【浦賀】

(深雪)

【名古屋】

五十鈴

【小樽】

▽掃一、掃二、掃三、掃四

【大泊】

▽沖風、澤風、峯風、矢風

【吳】

霧島▲、淺間▲、勝力、那智、伊勢、平戸

▽濱風、時津風、天津風、磯風、▽東雲、

薄雲、白雲、吹雪

波三、波四、波五、波六、波七、波八、

▽呂五三▲、呂五一▲、▽呂一六、呂一四、

【大 阪】

▽八雲、出雲、▽金剛、比叡、▽衣笠、加古、

古鷹、青葉、▽名取、▽長鯨

▽水無月、皐月、文月、長月、▽菊月、

三月月、望月、夕月、▽朝風、追風、疾風、

夕風、▽如月、睦月、彌生、卯月

▽伊二、伊一、伊三、▽伊五二、伊五一、

▽伊五五、伊五三、伊五四

能登呂

(叢雲)、(掃六)

【神 戸】

▽長門、陸奥、扶桑、日向、▽那珂、▽天龍、

▽迅鯨、▽赤城、鳳翔

▽吳竹、若竹、早苗、早蕨、▽藤、萩、薄、

葛、▽芙蓉、朝顔、夕顔、刈萱、▽梅、柿、

楡、栗、▽梅、楠、▽桐、櫻、橘、樺

▽呂六八、呂六三、呂六四、▽呂六六、

呂六五、呂六七

開宮、鶴見

(足柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)

【玉 子】

(掃五)

1956

【門司】神通、榎、吾妻、多摩

呂二五

【佐世保】(初雪) 若宮、龍田、夕張、由良、川内、長良

區葦、菱、莖、區太刀風、羽風、秋風、帆風

呂二、區呂二四、呂二三、呂三、呂四、

呂五、區呂六二、呂六一、呂六〇、呂三一、

伊六三、區呂三〇、呂二九、呂三二、

【長崎】(羽黒) 敷島、襟裳、早鞆、高崎

【馬公】(羽黒) 室戸、江風、菊、葵

【鎮海】檜、榎

【釜山】山風

【元山】海風

【旅順】對馬

【青島】球磨、桑、楨、櫻、椿

【上海】浦風、矢矧、安宅、島羽

【鎮江】伏見

【南京】桃

【燕湖】檜

【九江】柳、榎、利根、嵯峨

【大冶】榎

【漢口】利根、嵯峨

【長沙】隅田、勢多、保津

【重慶】堅田

【廣東】宇治

【航海中】佐多 (十月十八日「サンビドロ」發—徳山へ)

滿州 (十月二十一日「トラツク」發—湖地ヲ經テ「バラオ」へ)

比良 (十月二十七日漢口發—宜昌へ)

知床 (十月三十一日「ヒロ」發—徳山へ)

尻矢 (一日「サンビドロ」發—徳山へ)

洲崎 (四日「タラカン」發—「マニラ」へ)

駒橋 (五日旅順發—佐世保へ)

常磐 (六日佐世保發—仁川へ)

神威 (六日「タラカン」發—「タバオ」へ)

青島 (六日横須賀發—吳へ)

大井 (七日安平發—基隆へ)

韓崎 (七日神戶發—吳へ)

淀 (七日土佐沖作業地發—吳へ)

阿武隈 (七日高松發—博多へ)

逆 (七日佐世保發—那覇へ)

梨 (七日佐世保發—鹿兒島へ)

隱戸 (七日舞鶴發—新潟へ)

鬼怒 (七日徳山發—吳へ)

鬼怒 (八日吳發—高松へ)

樅 (八日舞鶴發—境へ)

(部内限二頁)

1957

海軍公報 第五百五十六號

昭和三年十一月九日(金)
海軍大臣官房

○通牒

軍務一第二八四號

昭和三年十一月九日

海軍省軍務局長

第一、第二艦隊參謀長
各鎮守府、各要港部參謀長
第一、第二遣外艦隊司令官

「ラムネ」製造機械整理ニ關スル件

本年度參謀長會議ノ際首題ノ件ニ關シ口述致シ置候處
其ノ後本件整理ニ關シ諸般ノ事情有之其ノ一部變更ノ
必要ヲ生ジタルヲ以テ此ノ際左記ニ依リ取計相成度
右依命申進ス

記

- 一、軍艦ニ於テハ艤裝品トシテ左記ニ依リ整理ス
- (イ) 未成艦及既成艦タル未搭載艦ニ對シテハ新ニ裝備ス

海軍公報 第五百五十六號 昭和三年十一月九日

(ロ) 既成艦ニシテ酒保基金等ニテ購入使用中ノモノハ
便宜ノトキ各艦適宜處分法ヲ講ズルコト

右處分濟ノ上ハ請求ヲ俟テ新ニ艤裝品トシテ裝備
ス

(ハ) 私立造船所等ヨリ寄贈ヲ受ケタルモノ若ハ(ロ)項中
ニテ特ニ當該艦ニ寄附ヲ申出デタルモノハ艤裝品
ニ編入ス

二、給糧艦タル任務ニ服スル特務艦間宮、鳴戸及航空
母艦タル任務ニ服スル特務艦能登呂ニ對シテハ艤
裝品トシテ裝備ス

但シ間宮及鳴戸ヨリハ驅逐艦及潜水艦等ニ配給セ
シム

經給第一一九號

昭和三年十一月九日

海軍省經理局

關係各部御中

一一九五

1958

支那警備艦船乗員ノ航海加俸ニ關スル件

本年十一月勅令第二百六十八號ヲ以テ海軍給與令第五表第二號中一部改正セラレ常時タルト臨時タルトヲ間ハズ警備ノ爲特ニ支那沿岸ニ派遣セララル艦船ノ乗員ニハ臺灣又ハ關東州在勤者トノ給與ノ權衡上一律ニ臺灣在勤加俸ニ相當スル額ノ航海加俸ヲ支給セララルコトト相成候處該艦船中ニハ單ナル巡航艦船ハ之ヲ含まザル御趣旨ニ有之候條左様御承知相成度右通牒ス

○雜款

○第十七驅逐隊(海風)行動豫定

地名	着	發
鎮海	十一月七日	十一月六日
元山	十一月七日	十五日
鎮海	十一月十六日	

○驅逐艦山風行動豫定

地名	着	發
鎮海	十一月七日	十一月七日
釜山	十一月七日	十六日
鎮海	十一月十六日	

○第二驅逐隊(峯風)行動豫定變更(十一月七日)

地名	着	發
大湊	十一月六日	十一月五日
小湊	十一月九日	八日
函館	十一月九日	十五日
大湊	十一月十五日	

○驅逐艦沖風行動豫定變更(十一月七日)

地名	着	發
大湊	十一月六日	十一月五日
小湊	十一月九日	八日

○郵便物發送先變更(十一月七日)

第二驅逐隊(峯風)宛
十一月十四日迄ニ到達見込ノモノハ
其ノ後ハ
驅逐艦沖風宛
自今

函館	大湊
大湊	大湊

○事務所設置

第六號掃海艇艇裝員事務所ヲ本月五日株式会社大阪鐵工所内ニ設置セリ

1959

豫備役海軍大佐正五位勳三等是 恒隆本月八日東京府豊多摩郡淀橋町緑ヶ岡二六一自宅ニ於テ卒去
セリ

海軍公報 第五百五十六號 昭和三年十一月九日

一一九七

1960

○艦船所在

▲印(ハ、ホ、ヘ)
指定ヲ要セズ

○十一月九日午前十時調

【横須賀】

筑摩▲、日進▲、阿蘇、磐手、北上、加賀▲、
木曾、榛名、山城

□神風、野風、沼風、波風、□朝風、春風、
松風、旗風、□杉、松▲、柏▲、□灘風、

夕風、島風、夕風、桂、楓、磯波

波一、波二、波九、波一〇、呂一一、

呂一二、呂一三、呂二二、呂二〇、

呂二一、呂五七、呂五八、呂五九、

伊二二、伊二一、伊二三

富士、松江、大泊、鳴戸、膠州、大和

(妙高)

【横濱】(白雪)

【浦賀】(深雪)

【清水】春日

【名古屋】五十鈴

□掃一、掃二、掃三、掃四

【函館】□峯風

【小樽】□深風

【大泊】竹

【奥】霧島▲、淺間▲、勝力、那智、伊勢、淀、韓崎

□濱風、時津風、天津風、磯風、□東雲、

薄雲、白雲、吹雪

波三、波四、波五、波六、波七、波八、

呂五三▲、呂五一▲、呂一六、呂一四、

【大阪】

□八雲、出雲、□金剛、比叡、□衣笠、加古、
古鷹、青葉、□名取、□長鯨

□水無月、早月、文月、長月、□菊月、

三月月、望月、夕月、□朝風、追風、疾風、

夕風、□如月、睦月、彌生、卯月

伊二、伊一、伊三、伊五二、伊五一、

伊五五、伊五三、伊五四

能登呂、開富

(叢雲)(掃六)

【神戸】□長門、陸奥、扶桑、日向、□那珂、□天龍、

□迅鯨、□赤城、風翔

□吳竹、若竹、早苗、早歲、□藤、萩、薄

菖、□芙蓉、朝顔、夕顔、刈萱、□梅、柿、

榆、栗、□梅、楠、□桐、櫻、橘、樺

呂六八、呂六三、呂六四、呂六六、

呂六五、呂六七

鶴見

(尾柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)

【高松】(掃五)

【門司】鬼神

【舞鶴】神通

吾妻▲、多摩

【境】 呂二五 (初雪)	【新】 若宮、龍田、夕張、川内、長良、駒橋	【佐世保】 区 葦、菱、董、区 太刀風、羽風、秋風、帆風	呂二、区 呂二四、呂二三、呂三、呂四、 呂五、区 呂六一、呂六一、呂六〇、呂三一、 伊六三、区 呂三〇、呂二九、呂三一、 敷島▲、襟裳▲、早鞆	【博多】 阿武隈	【長崎】 (羽黒)	【鹿兒島】 蓬	【那覇】 進	【馬公】 区 谷風	【基隆】 室戸	【鎮海】 大井	【釜山】 榎、板	【元山】 山風	【仁川】 常磐	【旅順】 對馬	【大連】 桑、楨	【芝罘】 球磨	【青島】 矢矧、安宅、島羽	【上海】 油風							
鎮江 伏見	南京 桃	蕪湖 柳	九江 檉	大冶 利根、嵯峨	漢口 隅田、保津	長沙 勢多、保津	重慶 堅田	廈門 菊	廣東 宇治	【夕巴オ】 神威	【マニラ】 洲崎	航海中	佐多 (十月十八日「サンビドロ」發—徳山へ)	滿州 (十月二十一日「トラツク」發—測地ヲ經テ「バラオ」へ)	比良 (十月二十七日漢口發—宜昌へ)	知床 (十月三十一日「ヒロ」發—徳山へ)	尻矢 (一日「サンビドロ」發—徳山へ)	青島 (六日横須賀發—吳へ)	江風 (八日馬公發—福州へ)	葵 (八日馬公發—汕頭へ)	沖風 (八日小樽發—大湊へ)	矢風 (八日小樽發—青森へ)	平戸 (九日吳發—徳山へ)	由良 (九日佐世保發—長崎へ)	高崎 (九日佐世保發—上海へ)

(部内限一頁)

1962

海軍公報

第五百五十七號

海軍大臣官房

昭和三年十一月十二日(月)

○通牒

官房第三二四號ノ四

昭和三年十一月十二日

海軍次官

吳鎮守府(參謀長殿)

外國船秩父丸内地不開港場寄港出願ニ對シ今般左記ノ
通免狀交付相成候
右通牒ス

記

第五七號

不開港場寄港免狀

- 一、船名 秩父丸
- 一、國籍 英國
- 一、種類 發動機船
- 一、船主氏名及國籍 英國人ゼー、エヌ、ワデル
- 一、船長氏名及國籍 同上

海軍公報 第五百五十七號 昭和三年十一月十二日

- 一、噸數 六噸
- 一、同航ノ目的 娛樂
- 一、航路 大阪灣ヨリ瀬戸内海ヲ經テ大分縣各沿岸ニ至ル
- 一、寄港地名
 - 兵庫縣 志筑、假屋、郡家、西ノ宮、住吉、須磨、舞子、明石、高砂、備磨、網干、室津、相生、坂越、坊勢島、家島、西島、那波、尼ヶ崎、赤穂
 - 大阪府 堺、岸和田、佐野、貝塚
 - 岡山縣 日生、片上、長島、牛窓、岡山、宇野、日比、下津井、犬島、長尾、鹿久居島、大多府島、黑崎、笠岡、眞鍋島、北木島、白石、福島
 - 香川縣 小豆島、志度、坂田、高松、多度津、栗島
 - 廣島縣 福山、鞆、松永、百島、向島、因ノ島、瀬戸田、川尻、宮島、大崎下島、大門

1963

山口縣 三田尻、上ノ關、室津、屋代島

大分縣 別府、大分

右不開港場へ寄港ヲ許可ス

本免狀有効期間ハ昭和三年十月三十一日ヨリ昭和四年十月三十日迄トス但シ必要ノ節ハ同期間内ト雖其ノ寄港ヲ差止ムルコトアルヘシ

昭和三年十月三十一日

遞信大臣

(裏面)

航行心得

- 一、本船ハ帝國法令條約ヲ遵守スルハ勿論表面記載ノ各港ニ於テ警察規則及各種港則ヲ遵守スヘシ
- 二、本免狀ハ何時タリトモ日本官吏ノ求メニ應ジ其ノ検査ヲ受クヘシ
- 三、本船ハ本免狀記載ノ目的外ニ使用スヘカラス殊ニ表面記載ノ各港間ニ於テ貨物旅客ノ運搬ヲ爲スヘカラス
- 四、前記ノ内何レノ箇條タリトモ之ニ違背スルトキハ直ニ此ノ免許ヲ取消スヘシ
- 五、此ノ免狀ノ期間滿了ノトキ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ直ニ此ノ免狀ヲ返納スヘシ

六、出帆前地方廳ノ檢閲ヲ受クヘシ又陸海軍ニ於テ必要ト認ムルトキハ隨時檢閲スルコトアルヘシ

官房第三八四六號

昭和三年十二月十二日

海軍省 副官

關係各廳御中

軍人會館建設審附ニ關スル件

本件ニ關シ左記(甲號)ノ通帝國在郷軍人會會長ヨリ依頼有之候ニ就テハ御賛成ノ上左記(乙號)ノ要領ニ依リ寄附スル様致度

右依命通牒ス

追テ醜金ハ各所轄毎ニ取纏メ(丙號)ノ様式ニ依リ

本年度分ハ十二月末日迄ニ海軍省經理局桑原主計少

佐宛送付セラレ度

尙右送金ニ際シテハ左記振替貯金利用相成度申添候

口座番號 東京四七六〇二番

加入者住所 麴町區霞ヶ關海軍省經理局

氏名

(甲號)

軍人會館建設ニ對シ現役軍人寄附ノ儀御願

1964

昭和三年八月二十二日

帝國在郷軍人會會長 一、戸兵衛

海軍大臣 岡田啓介殿

帝國在郷軍人會ハ今秋御舉行アラセラルル大禮ノ記念
トシテ軍人會館ヲ東京ニ建設スルノ計畫ヲ立テ只管共
ノ實行ニ努メ居候處本會館建設ノ資金ハ大部分ヲ本會
會員ニ釀出セシメ一部ヲ現役陸海軍人及一般篤志家ノ
寄附ニ待ツ次第ニ有之近來會員ニ對スル犧牲的要求尠
カラザル折柄會員釀出金ノ多額ヲ期待シ難キ事情御洞
察ノ上此ノ際現役將校同相當官下士卒諸氏ヨリ應分ノ
寄附相受ケ候様特ニ御配慮被下度左記書類相添ヘ此段
相願候也

追テ陸海軍現役諸氏ニ對シ本會館建設ノ趣旨ヲ普及
セシメ寄附金募集ニ關シ廣ク各官衙學校軍隊艦艇ノ
諒解ヲ得ル爲別紙印刷物配布致度候間御承認ノ上便
宜ヲ與ヘラレ候様併ヤテ御願申上候

(左記書類略ス)

(乙號)

軍人會館寄附金釀出要領

寄附ハ昭和三年、同五年十二月一日現在ニ就キ左記二
同ヲ以テ完了スルモノトス

一、士官、特務士官、准士官

昭和三年度 釀出當日(十二月一日)ノ俸給月額ノ
百分ノ一、〇

昭和五年度 同

二、下士官、兵

(イ) 下士官 昭和三年度釀出當日(十二月一日)ノ俸給
月額(日額三十二日分)ノ百分ノ一、〇
昭和五年度 同 百分ノ一、〇

(ロ) 兵(短期現役) 昭和三年度及昭和五年度ニ於テ
兵ヲ含ム 一回金拾五錢宛釀金ス

(備考)

第一回ノ釀金後右期間ニ於テ現役ヲ離レ又ハ歸休
ヲ命ゼラレタル者ハ爾後ノ釀金(在郷軍人トシテ
ノ釀金ヲ含ム)ヲ爲サザルコトニ在郷軍人會本部
ト協定シアリ

(丙號)

軍人會館建設費寄附金送付表

(昭和 年度)

(所轄名)

官等級 (級俸)	拂込區分 標準金額	人員		釀出金額	摘要
		人員	釀出金額		

1965

<p>計</p>	<p>備考 一、本表ハ官等級、級俸及拂込標準額ノ異ナル 毎ニ別行ニ記載スルコト 二、在郷軍人會會長ニ於テ一回以上ノ寄附者ニハ謝狀ヲ、三十圓以上ノ寄附者ニハ謝狀及記念品ヲ贈呈セラルルニ付總額出額一回以上寄附者ハ其ノ官氏名及金額ヲ別表トシ添付スルコト 三、本表ハ各二通宛調製提出ノコト</p>	<p>艦本第七八〇六號 昭和三年十一月十二日 海軍艦政本部長 各廳長殿 米突寸法山形及溝形鋼ノ件 豫テ製鐵所ニ於テ製作準備中ノ左記山形及溝形鋼ハ今回「ロール」完成ニ付註文供給差支ナキ旨在八幡監督官ヨリ報告有之候 右通知ス 記</p>
<p>山形鋼(耗) 25 x 25 x 3, 25 x 25 x 5, 溝形鋼(耗) 230 x 90 x 8.5, 230 x 80 x 8,</p>	<p>○雜款 ○司令驅逐艦變更 第二驅逐隊司令ハ本月八日司令驅逐艦ヲ沖風ヨリ峯風ニ變更セリ ○特務艦高崎行動豫定 地名 着 横須賀 十二月九日 吳 十二月九日 神戶 十二月九日 徳山 十二月九日 横須賀 十二月九日</p>	<p>○事務所設置 驅逐艦深雪艦裝具事務所ヲ浦賀船渠株式會社浦賀工場内ニ設置シ本月七日ヨリ事務ヲ開始セリ</p>

1966

○艦船所在

▲印(ハ)ハ(ホ)ノ
指定ヲ要セズ

○十一月十二日午前十時調

【横須賀】

筑摩▲日進▲阿蘇、磐手、北上、加賀▲
木曾、榛名、山城、春日

□神風、野風、沼風、波風、□朝風、春風、

松風、旗風、□杉、松▲柏▲榊▲□灘風、

沙風、島風、夕風、桂、楓、磯波

波一、波二、波九、波一〇、呂一一、

呂一二、呂一三、呂二二、呂二〇、

呂二一、呂五七、呂五八、呂五九、

伊二二、伊二一、伊二三

富士、松江、大泊、鳴戸、膠州、大和

(妙高)

【横濱】

(白雪)

【浦賀】

(深雪)

【名古屋】

五十鈴
□掃一、掃二、掃三、掃四

【大湊】

沖風

【青森】

矢風

【函館】

峯風

【小樽】

澤風

【大泊】

竹

【吳】

霧島▲淺間▲勝力、那智、伊勢、淀、韓崎
□濱風、時津風、天津風、磯風、□東雲、
薄雲、白雲、吹雪
波三、波四、波五、波六、波七、波八、

□呂五三▲、呂五一▲、□呂一六、呂一四、

呂一五、呂一、呂五二、□呂五六、呂五四、

呂五五、□呂二七、呂二六、呂二八、

□呂一八、呂一七、呂一九、伊五八

□掃一〇、掃一一、掃一二、掃八、掃七、掃九

野島、劍崎、攝津、石廊、朝日、隠戸

(伊五六)、(伊五七)

【大阪】□八雲、出雲、□金剛、比叡、□名取、□長龍

□水無月、皐月、交月、長月、□菊月、

三日月、望月、夕月、□朔風、追風、疾風、

夕風、□如月、睦月、潮生、卯月

□伊二、伊一、伊三、□伊五二、伊五一、

□伊五五、伊五三、伊五四

能登呂、間宮

(叢雲)、(掃六)

【神戸】□長門、陸奥、扶桑、日向、□那珂、□天龍

□迅鯨、□赤城、鳳翔、□衣笠、加古

古鷹、青葉

□吳竹、若竹、早苗、早嶽、□藤、萩、薄

葛、□芙蓉、朝顔、夕顔、刈萱、□梅、柿

楡、栗、□梅、楠、□桐、櫻、橘、樺

□呂六八、呂六三、呂六四、□呂六六、

呂六五、呂六七

鶴見

(足柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)

【高松】(掃五)

鬼怒

【徳山】平戸

海軍公報 第五百五十七號 昭和三年十一月十二日

【門司】神通
 【舞鶴】吾妻▲多摩
 (初雪) 呂二五
 【敦賀】梶
 【新潟】梨
 【佐世保】若宮、龍田、夕張、川内、長良、駒橋
 呂二、呂二四、呂三三、呂三、呂四、
 呂五、呂六二、呂六一、呂六〇、呂三一、
 伊六三、呂三〇、呂二九、呂三一
 敷島▲襟裳▲早稲
 【西月崎】青島
 【博多】阿武隈
 【長崎】由良
 (羽黒)
 【鹿兒島】藜、蓬
 【那覇】連
 【基隆】大井
 【高雄】谷風
 【鎮海】檜、榎
 【釜山】山風
 【元山】海風
 【仁川】常磐
 【旅順】對馬
 【大連】桑、楨
 【芝罘】榎

【青島】球磨
 【上海】矢矧、安宅、鳥羽
 【鎮江】高崎
 【南京】伏見
 【九江】桃
 【蕪湖】柳
 【漢口】檉
 【沙市】利根、蟻蛾
 【宜昌】保津
 【重慶】比良
 【福州】堅田
 【廈門】江風
 【汕頭】葵
 【廣東】洲治
 (マニラ)
 【航海中】
 佐多 (十月十八日「サンビドロ」發—徳山へ)
 滿州 (十月二十一日「トラツク」發—測地ヲ經テ「パライオ」へ)
 知床 (十月三十一日「ヒロ」發—徳山へ)
 尻矢 (一日「サンビドロ」發—徳山へ)
 室戸 (十一日馬公發—高雄へ)
 神威 (十一日「ダバオ」發—徳山へ)

(部内限一頁、同附録十五頁)

海軍潜水學校兵科練習生
同 機關科練習生

○通牒

經物第四二二號ノ二

昭和三年十一月十三日

海軍省經理局第二課長

各契約擔任官殿

競争入札加入者資格ニ關スル件

本件ニ關シ左記甲、乙ノ通應答セラレ候條爲念通知ス
記

(甲)

歲計第七四七號

昭和三年十一月一日

大藏省主計局長 河田 烈

海軍省經理局長 加藤亮一殿

客月十九日附經物第四二二號ヲ以テ大正十一年大藏省
令第三十三號中解釋ノ件ニ付御照會相成リ候處右ハ
(ロ)御見込ノ通

(乙)

經物第四二二號

昭和三年十月十九日

海軍省經理局長

大藏省主計局長殿

大正十一年大藏省令第三十三號中解釋ノ件

本件ニ關シ左記ノ通疑義ヲ生シ候ニ就テハ貴省ノ御意
見承知致度

右照會ス

記

第二條中「二年以來其ノ毎年納メタル地租云々」トア
ルハ

(イ) 毎年所定率以上ノ納稅ヲ要スルカ

(ロ) 二年ヲ通算シ所定率ニ達スレバ可ナリヤ

大禮特觀第四九號

昭和三年十一月十三日

大禮特別觀艦式事務委員長

部内一般

大禮特別觀艦式當日横須賀、横濱間
臨時列車ニ關スル件

1970

首題ノ件左記ノ通取計候ニ付御了知相成度
右通知ス

記

發驛名	發時刻 (時分)	着驛名	着時刻 (時分)	定員	記事
横須賀前	六二八	横濱前	七一八	約六五〇	一、陪觀者専用臨時列車(二等車ノミ)三十分ノ専用省線電車ニ接続ス
同右前	六四八	同右前	七三六一	約一五〇	一、陪觀者専用客車ニ連結ス 二、臨時列車(二等車)
横濱後	三二〇	横須賀後	四一三	約六〇〇	一、臨時列車(二等車)
同右後	四三二	同右後	五一二	約六〇〇	一、臨時列車(二等車)

注意 一、午前六時二十八分横須賀發陪觀者専用臨時列車ニ乗車シ得ル特別往復乗車券ヲ横須賀、田浦、逗子及鎌倉驛ニ於テ十二月一日ヨリ發賣スルニ付成ルベク前日迄ニ購求セララルヲ便トス

大禮特觀第五〇號

昭和三年十一月十三日

大禮特別觀艦式事務委員長

海軍公報 第五百五十八號 昭和三年十一月十三日

關係各廳長殿

大禮特別觀艦式豫行日ノ觀覽者ニ關スル件
來十二月二日大禮特別觀艦式豫行實施セラルルニ付テハ觀覽者ノ範圍等左記ノ通定メラレ候條御了知相成度
右申進ス

記

一、觀覽者ノ範圍共ノ他

乘艦	乘艦場所	乘艦時刻	收容人員	主ナル乘艦者種別
金剛	横濱大 棧橋B	午前 九、〇〇	三、〇〇〇	一、部内高等官家族 二、部内在郷高等官家族
比叡	横濱四 號岸壁	右同	三、〇〇〇	一、部内高等官家族 二、部内判任官ノ一部 三、部外者
磐手	横濱大 棧橋A	右同	一、五〇〇	一、部内雇員備人ノ一部 二、部内職工ノ一部 三、部外者
間宮	横須賀	午前 八、三〇	二、〇〇〇	一、横須賀方面ニ在ル部内者及其ノ家族 二、横須賀鎮守府ニ於テ指定スル部内者及部外者
神威	右同	右同	一、〇〇〇	一、部内高等官家族 二、部外者
青島	東京芝 浦埠頭	右同	八〇〇	一、部内高等官家族 二、部外者

一二〇九

1971

二、觀覽券ハ横須賀ヨリ乗艦スルモノニ對シテハ横須賀鎮守府ニ於テ之ヲ準備シ其ノ他ハ全部大禮特別觀艦式事務委員長之ヲ準備シ所要ノ向ニ夫々配付ス

三、右指定各艦以外參列艦船ニ其ノ乘員ノ家族ヲ收容觀覽セシムルハ各艦適宜トス

○ 辭 令

海軍技師 神谷 基夫
科學研究部勤務ヲ命ス(十海軍技術研究所)

○ 雜 款

○地方饗饋場ニ郵便局員出張
來十六日左記ノ通地方饗饋場ニ郵便局員出張ノ上記念郵便切手賣捌並ニ記念消印捺捺方取計置キタリ

記

一、出張場所
水交社(在京高等官饗饋場)
海軍省(在京判任官饗饋場)

二、出張時刻

自午前十時三十分
至午後二時

(海軍省副官)

○軍艦長良行動豫定

地名	着	發
佐世保	十一月二十七日	十一月二十五日
横濱	十二月八日	十二月六日
佐世保	十二月八日	

○軍艦平戸行動豫定

地名	着	發
吳	十一月二十七日	十一月二十六日
鳥羽	十二月二十九日	十二月二十八日
東京灣	十二月八日	十二月六日
吳	十二月八日	

○郵便物發送先

練習艦隊司令部、軍艦八雲、出雲宛	大 阪
十一月十八日迄ニ到達見込ノモノハ	横 須 賀
同 三十日迄ニ 同	横 濱
其ノ後ハ	
軍艦長良宛	横 濱
十二月二十四日迄ニ到達見込ノモノハ	佐 世 保
十二月五日迄ニ 同	横 濱
其ノ後ハ	佐 世 保

1972

軍艦平戸宛

十二月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ
三月五日迄ニ同
其ノ後ハ
吳横濱

軍艦大井宛

十二月二十七日迄ニ到達見込ノモノハ
二月一日迄ニ同
二月八日迄ニ同
其ノ後ハ
吳横濱
須賀見

○改名

海軍大尉武田危治ハ治危ト改名ノ旨本月七日届出デタ
リ

○事務所設置

第五號掃海艇艦装具事務所ヲ三井物産株式会社造船部
玉工場(岡山縣兒島郡日比町字玉)内ニ設置シ本月八
日ヨリ事務ヲ開始セリ

海軍公報 第五百五十八號 昭和三年十一月十三日

一一一

○艦船所在

▲印ハハホセ
指定ヲ要セズ

○十一月十三日午前十時調

【横須賀】

筑摩▲、日進▲、阿蘇、磐手、北上、加賀▲、木曾、榛名、山城、春日

区神風、野風、沼風、波風、区朝風、春風、松風、旗風、区杉、松▲、柏、榊▲、区灘風、汐風、島風、夕風、桂、楓

波一、波二、波九、波一〇、呂一一、呂一二、呂一三、区呂二二、呂二〇、呂二一、区呂五七、呂五八、呂五九、区伊二二、伊二一、伊二三

富士、松江、大泊、鳴戸、膠州、大和

(妙高)

(深雪)

磯波

五十鈴

区掃一、掃二、掃三、掃四

大湊

区沖風

青森

区矢風

函館

区峯風

小樽

区澤風

大泊

区霧島▲、淺間▲、那智、伊勢、淀、韓崎

区濱風、時津風、天津風、磯風、区東雲、薄雲、白雲、吹雪

吳

波三、波四、波五、波六、波七、波八、波九

区呂五三▲、呂五一▲、区呂二六、呂二四、呂二五、呂二七、区呂二八、呂二九、呂三〇、呂三一、呂三二、呂三三、呂三四、呂三五、呂三六、呂三七、呂三八、呂三九、呂四〇、呂四一、呂四二、呂四三、呂四四、呂四五、呂四六、呂四七、呂四八、呂四九、呂五〇、呂五一、呂五二、呂五三、呂五四、呂五五、呂五六、呂五七、呂五八、呂五九、呂六〇、呂六一、呂六二、呂六三、呂六四、呂六五、呂六六、呂六七、呂六八、呂六九、呂七〇、呂七一、呂七二、呂七三、呂七四、呂七五、呂七六、呂七七、呂七八、呂七九、呂八〇、呂八一、呂八二、呂八三、呂八四、呂八五、呂八六、呂八七、呂八八、呂八九、呂九〇、呂九一、呂九二、呂九三、呂九四、呂九五、呂九六、呂九七、呂九八、呂九九、呂一〇〇

区掃一〇、掃一一、掃一二、掃一三、掃一四、掃一五、掃一六、掃一七、掃一八、掃一九、掃二〇、掃二一、掃二二、掃二三、掃二四、掃二五、掃二六、掃二七、掃二八、掃二九、掃三〇、掃三一、掃三二、掃三三、掃三四、掃三五、掃三六、掃三七、掃三八、掃三九、掃四〇、掃四一、掃四二、掃四三、掃四四、掃四五、掃四六、掃四七、掃四八、掃四九、掃五〇、掃五一、掃五二、掃五三、掃五四、掃五五、掃五六、掃五七、掃五八、掃五九、掃六〇、掃六一、掃六二、掃六三、掃六四、掃六五、掃六六、掃六七、掃六八、掃六九、掃七〇、掃七一、掃七二、掃七三、掃七四、掃七五、掃七六、掃七七、掃七八、掃七九、掃八〇、掃八一、掃八二、掃八三、掃八四、掃八五、掃八六、掃八七、掃八八、掃八九、掃九〇、掃九一、掃九二、掃九三、掃九四、掃九五、掃九六、掃九七、掃九八、掃九九、掃一〇〇

野島、劍崎、攝津、石廊、朝日、隠戸

(伊五六)、(伊五七)

区八雲、出雲、白金剛、比叡、区名取、区長鯨

区水無月、皐月、文月、長月、区菊月、区三日月、望月、夕月、区朝風、追風、疾風、夕風、区如月、陰月、彌生、卯月

区伊二、伊一、伊三、区伊五二、伊五一、区伊五五、伊五三、伊五四

能登呂

(叢雲)、(掃六)

区長門、陸奥、扶桑、日向、区那珂、区天龍

区迅鯨、区赤城、風翔、区衣笠、加古

区古鷹、青葉

区吳竹、若竹、早苗、早蕨、区藤、萩、薄

区菖蒲、芙蓉、朝顔、夕顔、区劉、区桐、区梅、区柿、区榆、区栗、区梅、区楠、区桐、区櫻、区橘、区檉

区呂六八、呂六三、呂六四、区呂六六、呂六五、呂六七

鶴見、間宮

(足柄)、(伊二四)、(伊六一)、(伊四)

【玉】

(掃五)

【高松】

鬼怒

海軍公報 第五百五十八號 昭和三年十一月十三日

